

「高齢者の健康に関する意識調査」結果（概要）

1 調査の目的

我が国では高齢化が急速に進んでおり、平成 25 年（2013 年）には高齢者が国民の 4 人に 1 人となり、平成 47 年（2035 年）には 3 人に 1 人となると予測されている。

本格的な高齢社会を迎え、国民の一人一人が長生きして良かったと実感できる社会を築き上げていくためには、就業・所得、健康・福祉、学習・社会参加、生活環境等に係る社会システムが高齢社会にふさわしいものとなるよう、不断に見直し、適切なものとしていく必要がある。このような観点から、本調査は、健康状態、生きがい、外出、食生活、介護、医療に関する点など、高齢者の健康に関する意識等を把握するとともに、前 3 回（平成 8 年度、平成 14 年度、平成 19 年度）の調査と時系列分析を行い、今後の高齢社会対策の推進に資することを目的として実施した。

2 調査対象者，調査方法，調査事項等

（1）調査対象者

全国の 55 歳以上の男女

（2）調査方法

調査員による個別面接聴取法

（3）調査事項

- ① 健康状態に関する事項
- ② 日常生活に関する事項
- ③ 医療に関する事項
- ④ 福祉に関する事項
- ⑤ 食生活に関する事項
- ⑥ その他の事項
- ⑦ 高齢者政策や支援に関する事項

（4）調査実施期間

平成 24 年 9 月 27 日～10 月 14 日

（5）標本抽出方法

層化二段無作為抽出法

（6）標本数及び有効回収数

- ア．標本数，有効回収数，回収率
- | | |
|-------|-----------------|
| 標本数 | 3,000 人 |
| 有効回収数 | 1,919 人 (64.0%) |

イ. 調査不能数, 不能内訳

調査不能数 (率) 1,081 人 (36.0%)

不能内訳

転居	78	長期不在	86
一時不在	270	住所不明	31
拒否	520	その他	96

(7) 調査実施機関

一般社団法人 中央調査社

(8) 調査の協力者

本調査は、内閣府政策統括官（共生社会政策担当）の委託研究の一環として、一般社団法人中央調査社が学識経験者の協力を得て実施した。企画分析委員は以下のとおりとなっている。

白波瀬 佐和子	(東京大学大学院人文社会系研究科教授)
杉澤 秀博	(桜美林大学大学院老年学研究科教授)
直井 道子	(桜美林大学大学院老年学研究科客員教授)
安村 誠司	(福島県立医科大学医学部教授)

(50音順 敬称略)

(9) 過去の調査について (標本数, 有効回収数, 回収率)

本報告書で結果を引用した過去の調査結果は次のとおりである。

	(調査名)	(母集団)	(標本数)	(有効回収数)
平成19年度調査	高齢者の健康に関する意識調査	55歳以上の男女	5,000	3,157
平成14年度調査	高齢者の健康に関する意識調査	65歳以上の男女	3,000	2,307
平成8年度調査	高齢者の健康に関する意識調査	60歳以上の男女	3,000	2,364

3 調査対象者の基本属性

(1) 性別構成

	総数	男性	女性
総数			
構成(人)	1,919	865	1,054
構成比(%)	100.0	45.1	54.9
平成19年度			
構成(人)	3,157	1,488	1,669
構成比(%)	100.0	47.1	52.9

(2) 年齢別構成

	総数	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80歳以上
総数							
構成(人)	1,919	288	389	361	345	256	280
構成比(%)	100.0	15.0	20.3	18.8	18.0	13.3	14.6
平成19年度							
構成(人)	3,157	610	676	675	544	404	248
構成比(%)	100.0	19.3	21.4	21.4	17.2	12.8	7.9

4 調査結果の概要

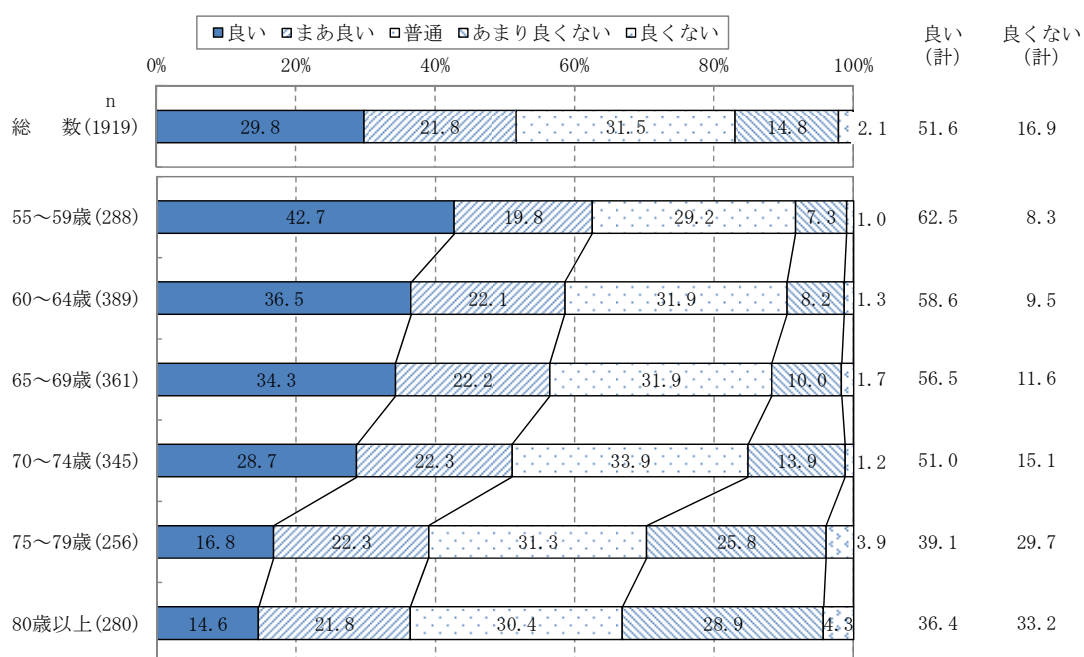
① 健康状態に関する事項

○現在の健康状態

健康状態についての意識は「良い」「まあ良い」の合計が過半数を超える。

- 最も多いのは「普通」で31.5%、以下、「良い」が29.8%、「まあ良い」が21.8%、「あまり良くない」が14.8%、「良くない」が2.1%の順となっている。
- 「良い」と「まあ良い」を合わせた「良い(計)」は51.6%。
- 年齢階級別にみると、「良い」は55～59歳では42.7%を占めているが、年齢階級が上がるほど、「良い」の割合は低くなる傾向がみられる。

○「あなたの現在の健康状態は、いかがですか。」



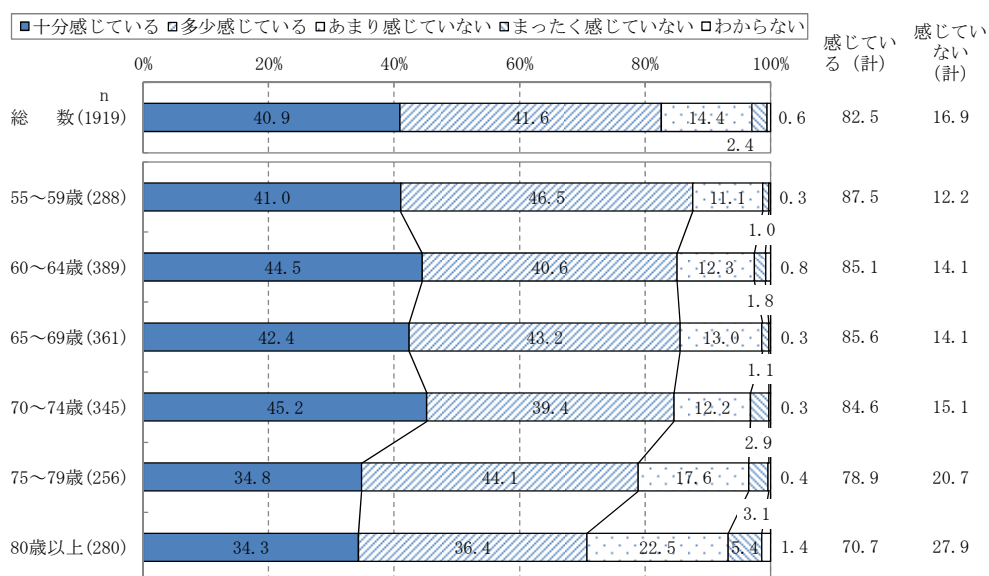
②日常生活に関する事項

○生きがい（喜びや楽しみ）の有無

8割以上の人が生きがいを感じている。

- 「十分感じている」の40.9%と「多少感じている」の41.6%を合わせた「感じている（計）」の割合は、全体の8割以上を占める。「あまり感じていない」は14.4%、「まったく感じていない」は2.4%である。
- 年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるほど、生きがいを感じる割合がわずかながらも低下する傾向がみられる。「感じている（計）」は75～79歳で8割を切り、80歳以上では70.7%と低くなっている。

○「あなたは、現在、どの程度生きがい（喜びや楽しみ）を感じていますか。」

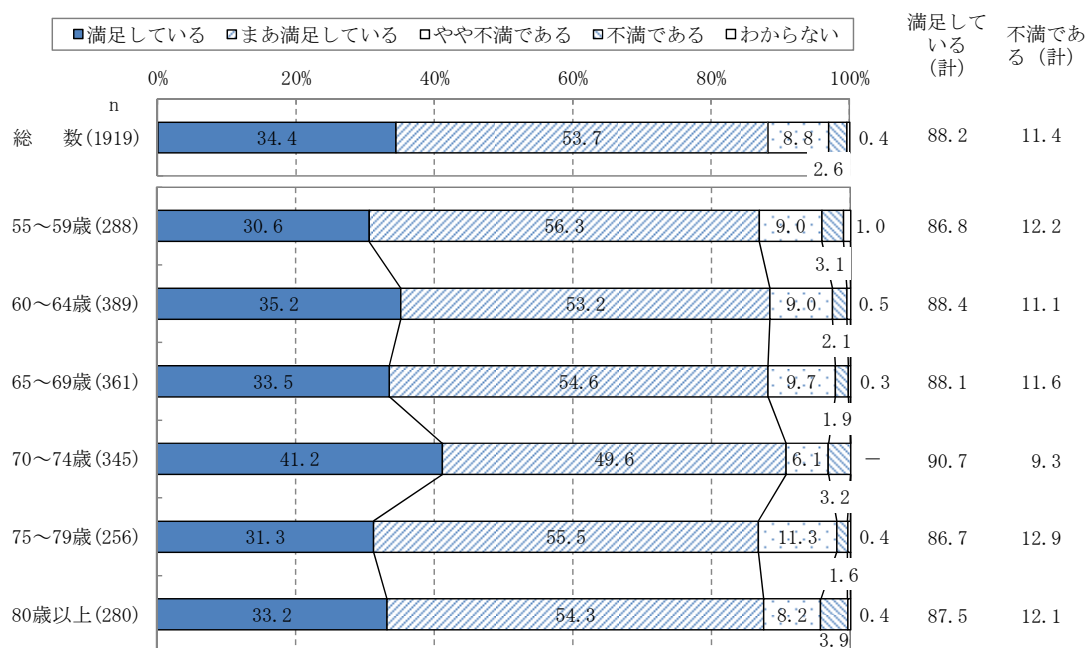


○日常生活についての満足度

約9割の人が日常生活に満足している。

- 最も多いのは「まあ満足している」が 53.7%，次いで「満足している」が 34.4%となっている。「やや不満である」は 8.8%，「不満である」は 2.6%である。「満足している（計）」（「満足している」と「まあ満足している」を合わせた割合）は，88.2%に達する。
- 年齢階級別にみると，「満足している」は70～74歳で41.2%と最も高く，55～59歳で30.6%と最も低い。

○「あなたは、ご自分の日常生活全般について満足していますか。」

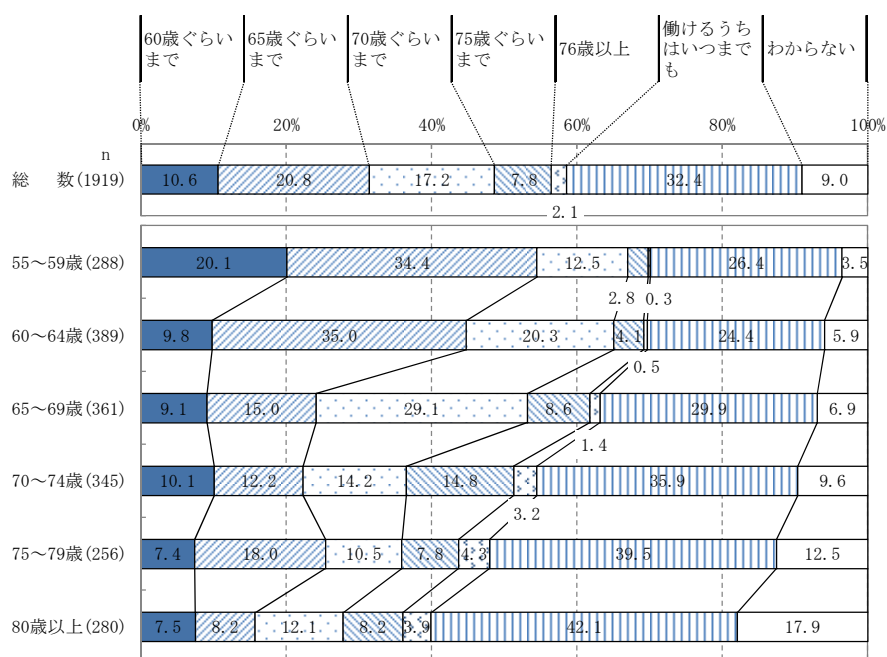


○退職希望年齢

約6割の人が65歳を超えても働きたいと考えている。

- 最も多いのは「働けるうちはいつまでも」が32.4%、以下、「65歳ぐらいまで」が20.8%、「70歳ぐらいまで」が17.2%、「60歳ぐらいまで」が10.6%などとなっている。
- 「働けるうちはいつまでも」は、年齢階級とともに上昇する傾向が強く、55～59歳では26.4%、60～64歳では24.4%であるが、65～69歳では29.9%、70～74歳では35.9%、75～79歳では39.5%と割合が増え、80歳以上では42.1%となっている。

○「あなたは、何歳ごろまで仕事をしたいですか。」

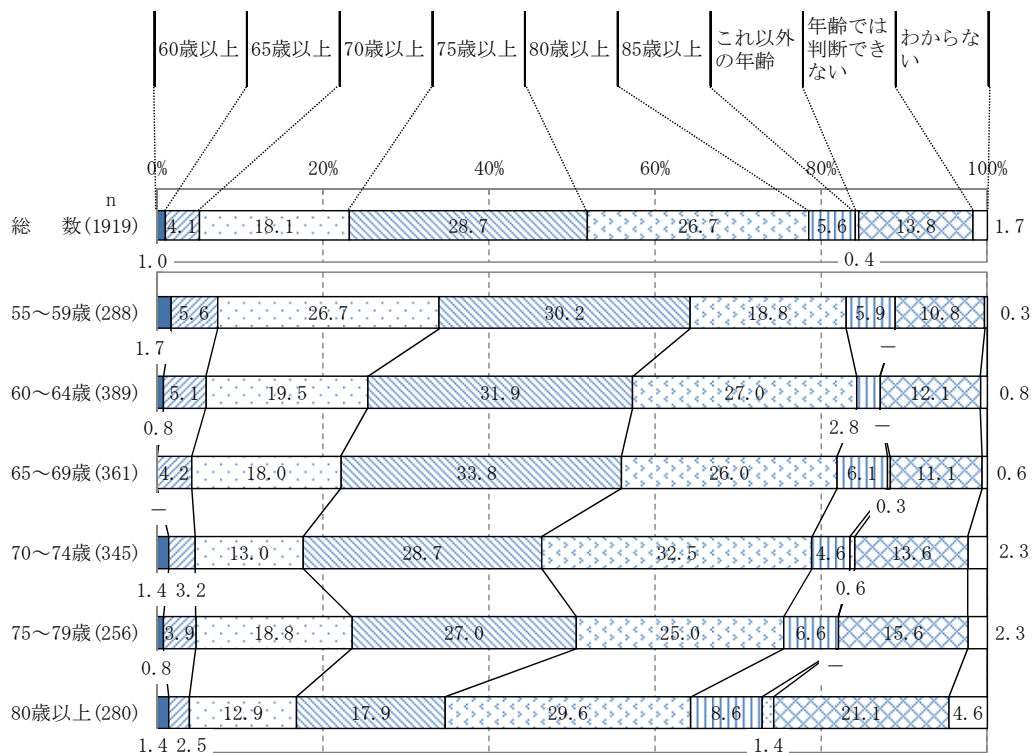


○支えられるべきと思う高齢者の年齢

「支えられるべき高齢者」の年齢は、「75歳以上」と考える人が約3割と最も多い。

- 最も多いのは「75歳以上」が28.7%、以下、「80歳以上」が26.7%、「70歳以上」が18.1%などとなっている。「年齢では判断できない」は13.8%であった。
- 年齢階級別にみると、年齢階級が高くなるとともに、支えられるべきと思う年齢も高くなる傾向がみられる。80歳以上では、「年齢では判断できない」が21.1%と高くなっている。

○「あなたは、一般的に支えられるべき高齢者とは何歳以上だと思いますか。」



③医療に関する事項

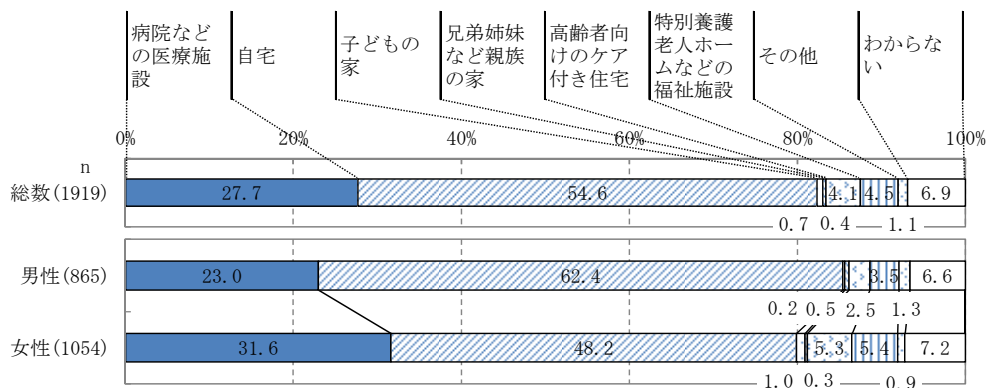
○最期を迎えたい場所

自宅で最期を迎えることを希望する人は、54.6%（男性62.4%、女性48.2%）。

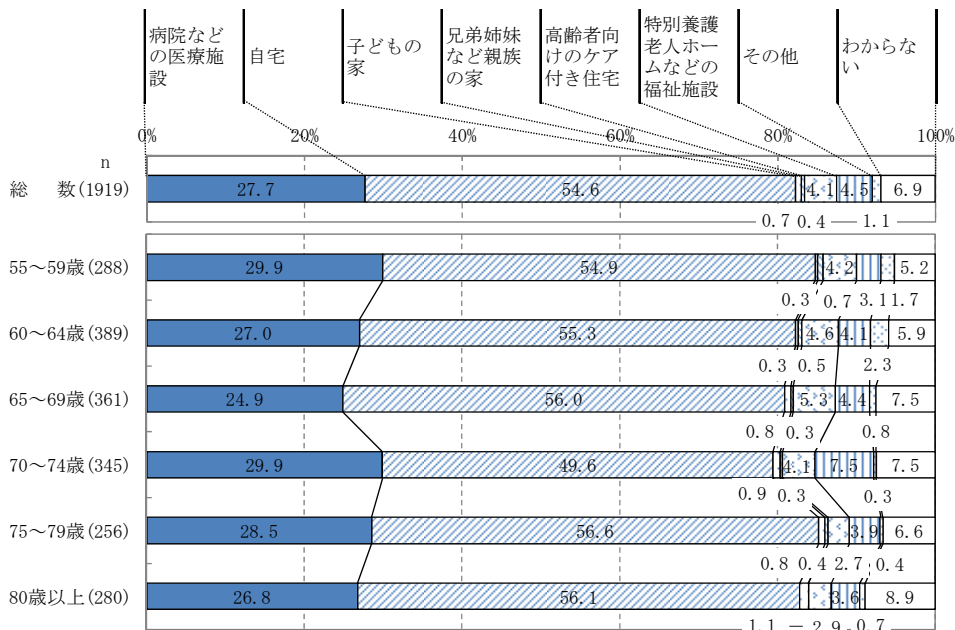
- ・ 半数を超えて多いのは「自宅」で54.6%である。次いで「病院などの医療施設」が27.7%、「特別養護老人ホームなどの福祉施設」は4.5%、「高齢者向けのケア付き住宅」は4.1%などとなっている。
- ・ 性別にみると、「自宅」は、女性の48.2%よりも男性の62.4%で、「病院などの医療施設」は、男性の23.0%よりも女性の31.6%で希望する割合が高くなっている。

○「万一、あなたが治る見込みがない病気になった場合、最期はどこで迎えたいですか。」

<性別>



<年齢階級別>



○配偶者に最期を迎えさせたい場所

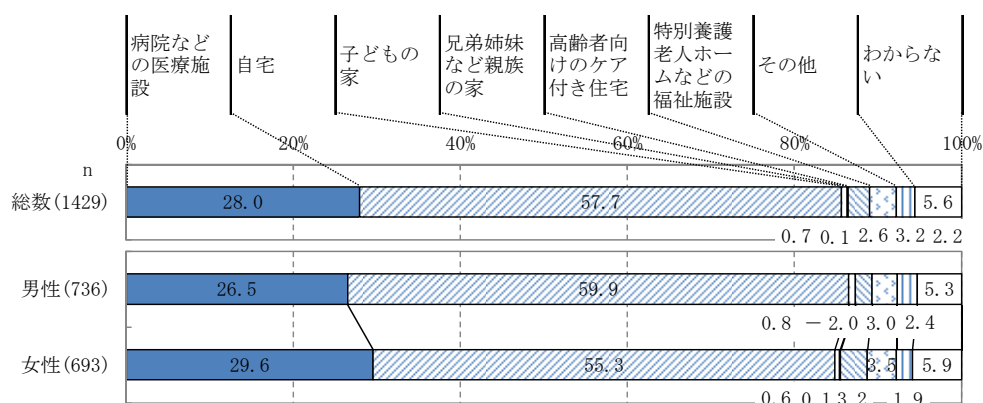
配偶者を自宅で最期を迎えさせてあげたい人は、57.7%（男性59.9%、女性55.3%）。

- 最も多いのは「自宅」で57.7%である。次いで「病院などの医療施設」が28.0%、「特別養護老人ホームなどの福祉施設」は3.2%、「高齢者向けのケア付き住宅」は2.6%などとなっている。
- 性別にみると、「自宅」は女性の55.3%よりも男性の59.9%の方が、「病院などの医療施設」は男性の26.5%よりも女性の29.6%の方が高くなっている。

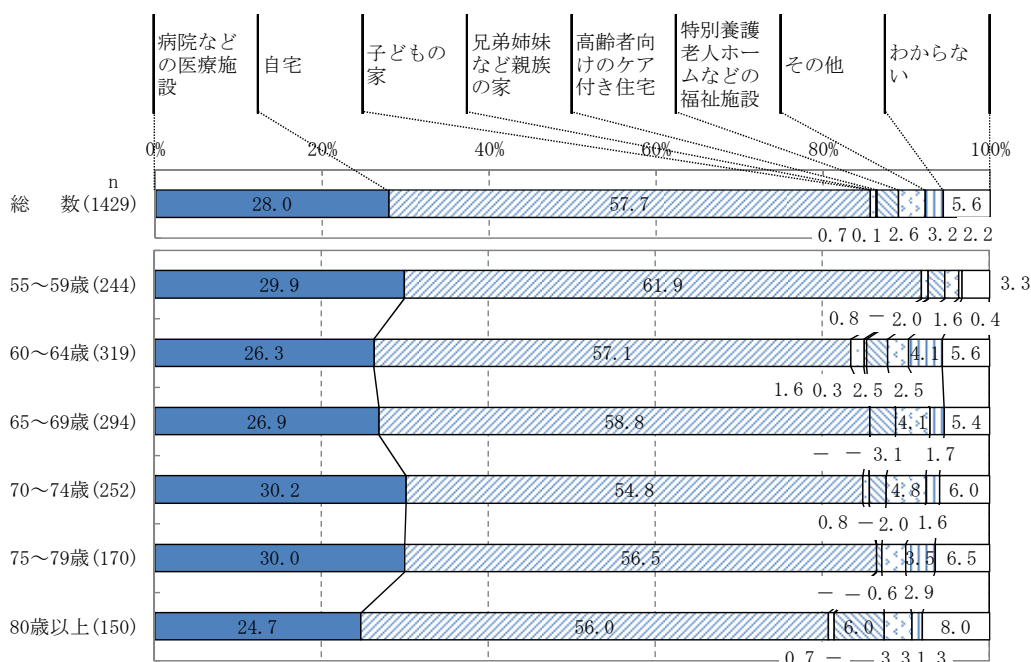
[配偶者と同居している方に]

○「万一、あなたの配偶者が治る見込みがない病気になった場合、最期をどこで迎えさせてあげたいですか。」

<性別>



<年齢階級別>

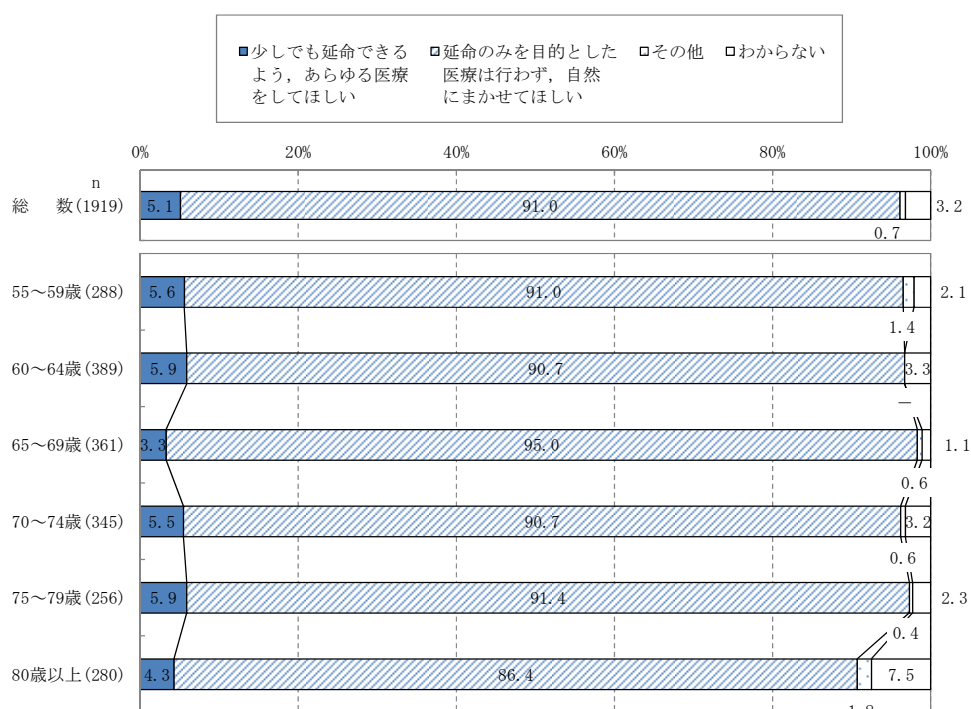


○延命治療に対する考え方

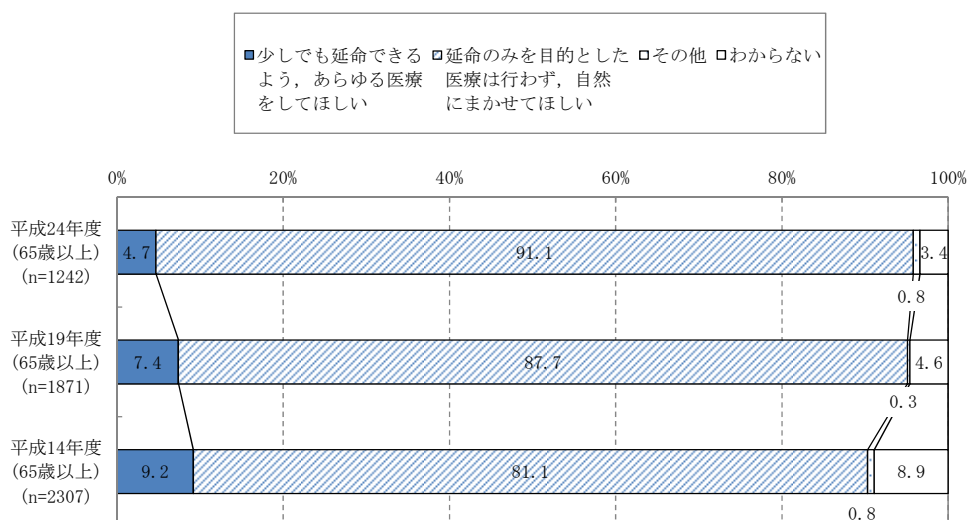
自分が延命医療を受けたい人は5.1%だが、家族に延命医療を受けさせたい人は14.7%。

- ・ 自分が病気で治る見込みがない場合、「延命のみを目的とした医療は行わず、自然にまかせてほしい」が91.0%を占め、「少しでも延命できるよう、あらゆる医療をしてほしい」は5.1%であった。
- ・ 一方、家族が病気で治る見込みがない場合、「延命のみを目的とした医療は行わず、自然にまかせてほしい」が73.7%、「少しでも延命できるよう、あらゆる医療をしてほしい」は14.7%であった。

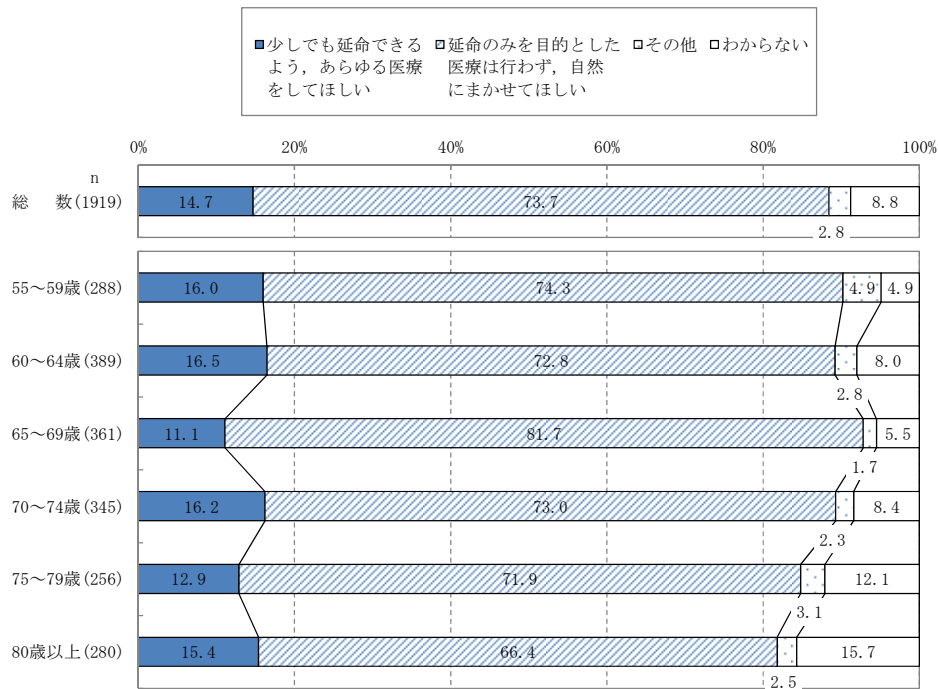
○「万一、あなたの病気が治る見込みがなく、死期が近くなった場合、延命のための医療を受けることについてどう思いますか。」



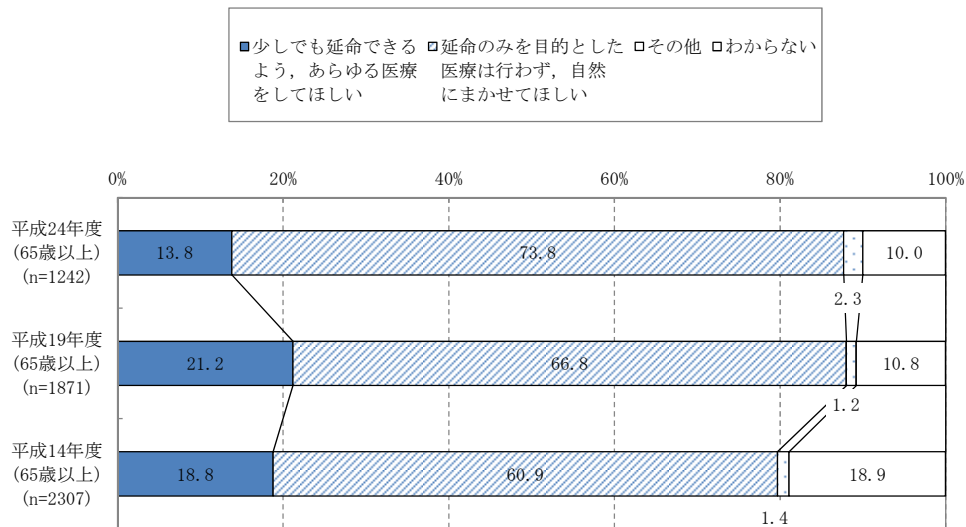
時系列にみた自分についての延命治療に対する考え方



○「万一、あなたのご家族の病気が治る見込みがなく、死期が近くなった場合、延命のための医療を受けることについてどう思いますか。」



時系列にみた家族についての延命治療に対する考え方



○健康管理に関する行政への期待

行政に力を入れて欲しい健康管理は認知症が36.0%。

- 最も多いのは「認知症について」で36.0%である。以下、「寝たきりの予防方法について」が29.8%、「介護の方法について」が29.7%とほぼ同じ割合で続き、「がん、心臓病、脳卒中などの生活習慣病について」が22.9%、「健康診査の内容や受け方について」が17.8%などの順となっている。
- 年齢階級別にみると、「認知症について」、「寝たきりの予防方法について」、「介護の方法について」は、55～59歳、60～64歳で高くなっている。「特にない」は、55～59歳では11.8%だが、年齢階級が上がるほど割合が高くなり、80歳以上では39.6%となっている。

○「高齢者の健康管理について、あなたが国や地方自治体に力を入れてほしいことは何ですか。」(3つまでの複数回答)

